

国内実態調査報告書

テーマ : 体験と講義を通して学ぶアイヌ民族と文化の多面性
ゼミ名 : 栗原 文子 ゼミ
調査日 : 2025 年 1 月 29 日 (水) ~ 1 月 31 日 (金)
調査先 : 民族共生象徴空間ウポポイ、北海道博物館、
北海道大学アイヌ・先住民研究センター
授業科目名 : ベーシック演習Ⅱ
参加学生数 : 16 名 (1 年生)

調査の趣旨 (目的)

本ゼミは、異文化理解をテーマとしている。秋学期の実態調査では、アイヌ民族とその文化を学ぶため、北海道を訪問した。

事前準備として、『最新アイヌ学がわかる』（佐々木史郎・北原モコットウナシ著編）を読み、YouTube でアイヌの若者による配信動画を視聴した。また、アイヌの人々に対する差別やマイクロアグレッション、世界の先住民族の言語や文化継承などについて学び、アイヌ民族とその文化に関する基礎的な知識を深めた。

実態調査の目的は、白老にあるウポポイ（アイヌの歴史・文化を学び伝えるナショナルセンター）や札幌の北海道博物館を視察し、さらに北海道大学アイヌ・先住民研究センターにて専門家によるアイヌの歴史や交易に関する講義を受けることで、理解をより深めることである。

調査結果

1 日目は、新千歳空港から白老へ向かい、ウポポイを視察した。国立アイヌ民族博物館では、各自が展示を見学した後、点在するさまざまな施設を巡り、弓矢体験や伝統的コタンでの衣装体験、アイヌ古式舞踊（祭りや儀式におけるアイヌ語の歌と踊り）の観覧などを通じて、積極的にアイヌ文化に触れる機会を持った。

2 日目は、北海道の自然・歴史・文化を紹介する北海道博物館を訪れ、北海道の自然や動物と人との関わり、アイヌ民族の歴史、本州からの移住者の暮らしなどについて、過去・現在・未来の視点から包括的に学んだ。

3 日目は、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの蓑島栄紀准教授による「『交流』からみたアイヌ史」という講義を受けた。授業で学んできた差別や抑圧の歴史だけでなく、アイヌ民族が活発な交流や交易を行い、「国境を越える歴史」の主要なプレーヤーとし

ての主体性や力強さを持っていたことを、興味深い事例とともに紹介していただいた。
この講義は、学生たちに新たな気づきを与える貴重な機会となった。

3日間を通じて、実際にアイヌ文化を体験し、若いアイヌ民族の方々が文化復興のために力を合わせて踊りや歌を練習する様子を目の当たりにし、さらに専門家から最新のアイヌ研究の動向を学ぶことができ、有意義な実態調査となった。

